

耳原総合病院壁画 制作プロセス

制作：中島裕司

制作補助：大学の副手、文化教室の生徒等

私とのつながりのある人（良い経験）

中島裕司(なかじま ひろし)

- 大阪生まれ
- 大阪芸術大学大学院後期博士課程修了 博士(芸術)
- 専門 油彩画・テンペラ画・美術教育
- 日本美術家連盟・国際美術家連盟会員
- 国際美術研究所客員研究員
- 大阪芸術大学・非常勤講師

今は、ミュオグラフィアートプロジェクトに関わっている。

アートは人間にとって非常に大切

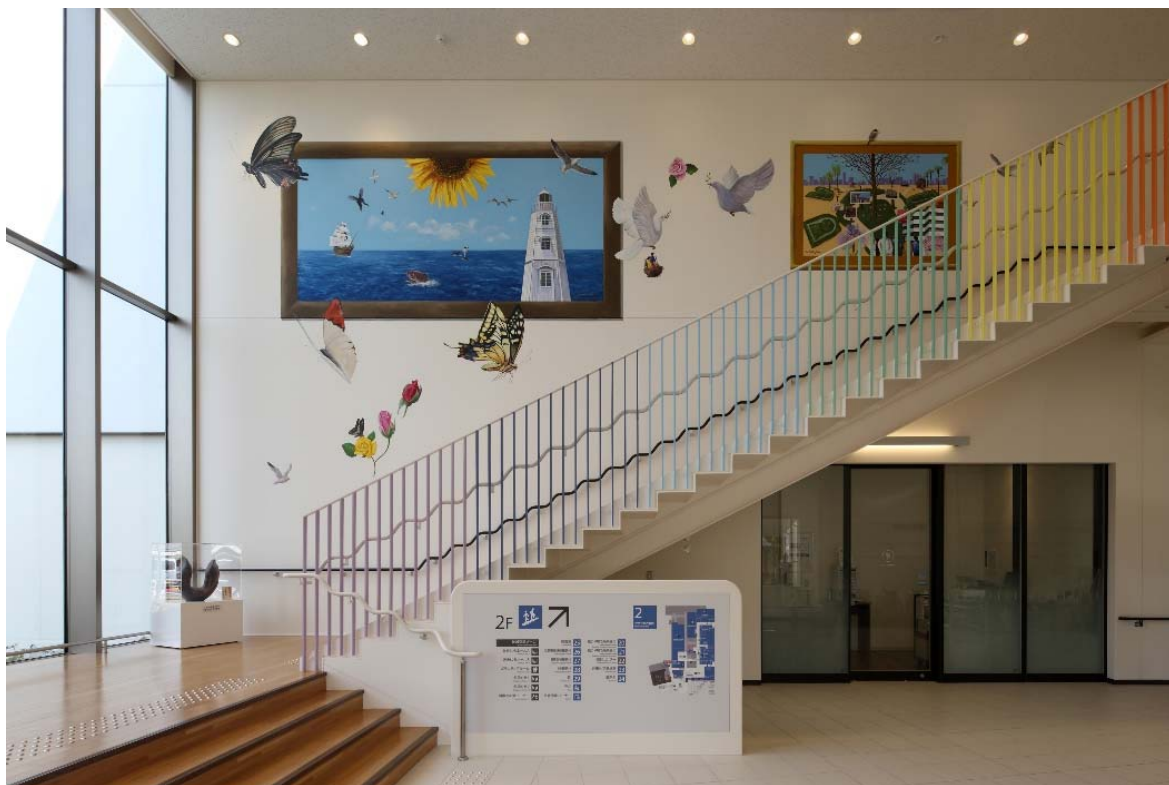
- 感動 喜び 哀しみ
- 一般的に、万人に伝わる
- アートはカタルシスの効果

耳原総合病院壁画制作の経緯

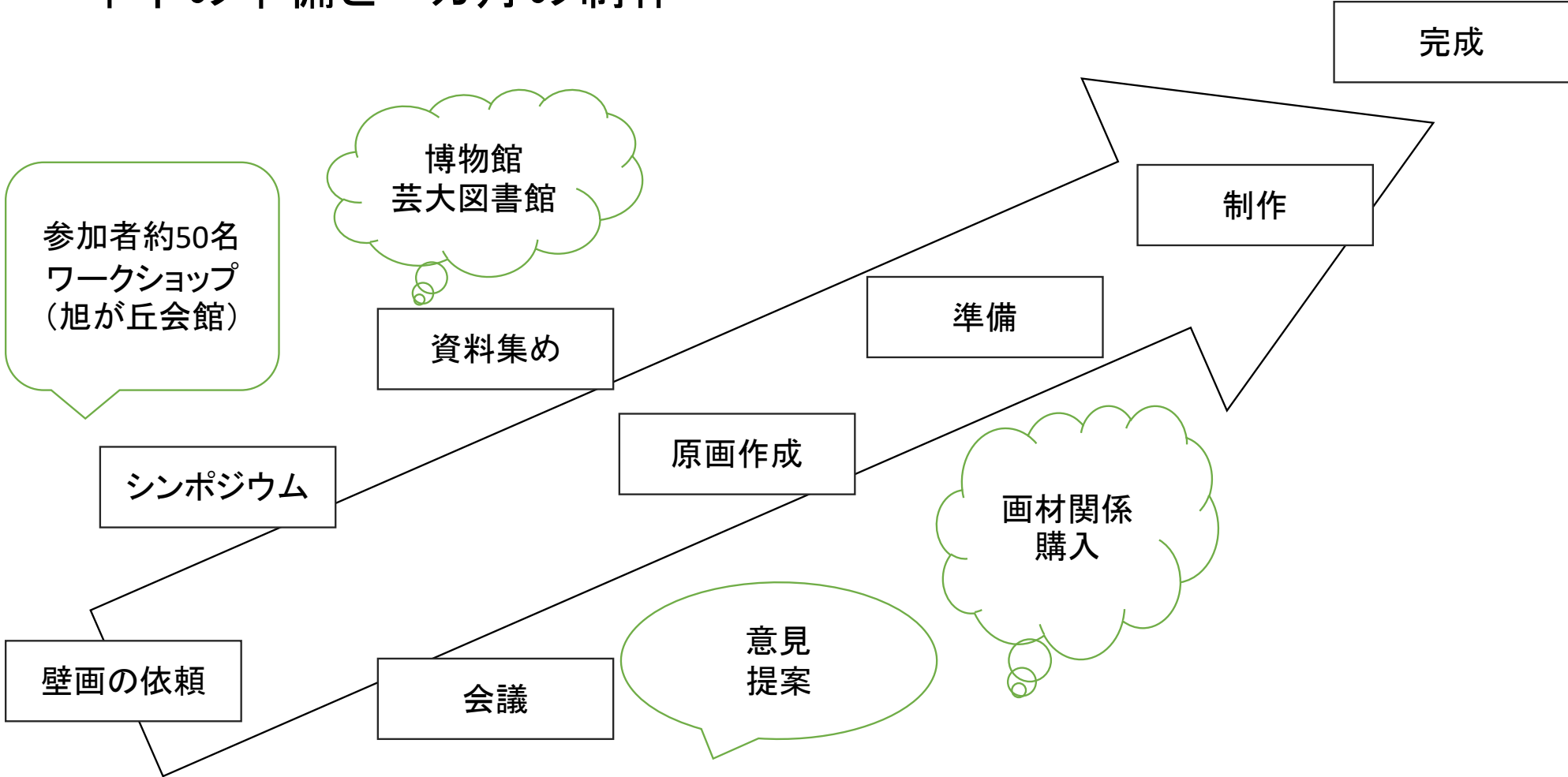
病院はアート
の時代
病院の壁画制作の依頼が来た。
アートの役割と力
制作者の気持ちと関係者の気持ち



耳原総合病院内部



一年半の準備と一カ月の制作



耳原総合病院の歴史
病院関係者・地域の人
の思い
堺市・大阪・世界

耳原総合病院の未来
病院関係者・地域の人
たち

病院内
アートの力

生命・愛・平和・平等・協調 ⇒ 明るく広がる絵画

制作環境の悪さ

- ・騒音・におい・粉塵
- ・足場の狭さや高さや不安定さ

壁画に適したアクリル絵の具

アクリル樹脂（壁画に適している）

- 水溶性である。
- 乾燥が早い。
- 乾燥すると、耐水性、丈夫。

制作プロセス

どういう風に壁画が描かれていくか

アクリル絵の具の使い方や技法を 事前に教える

絵画の描画には、ある程度の技法知識が必要なので、お手伝いの方に、アトリエに集まってもらい、小さな板に色々と技法を取得してもらった。

三階の足場での制作



描く現場



予め業者に依頼して、階段手すりに虹色を塗ってもらっていた。
虹の階段・・・未来への架け橋

マスキング



マスキング
テープの粘
度に注意

マスキングに合わせて色を塗る



ガムテープや養生テープを直接貼ると壁のペイント面が剥がれることがある。

転写の準備



裏側に木炭
で擦って転写
の準備をする。
プロジェク
ターで投射し
てもいい。

転写



転写後、
マスキングして、
色を塗る作業。

モチーフの蝶を描く



大きな蝶である
から、ある程度
細部も描く

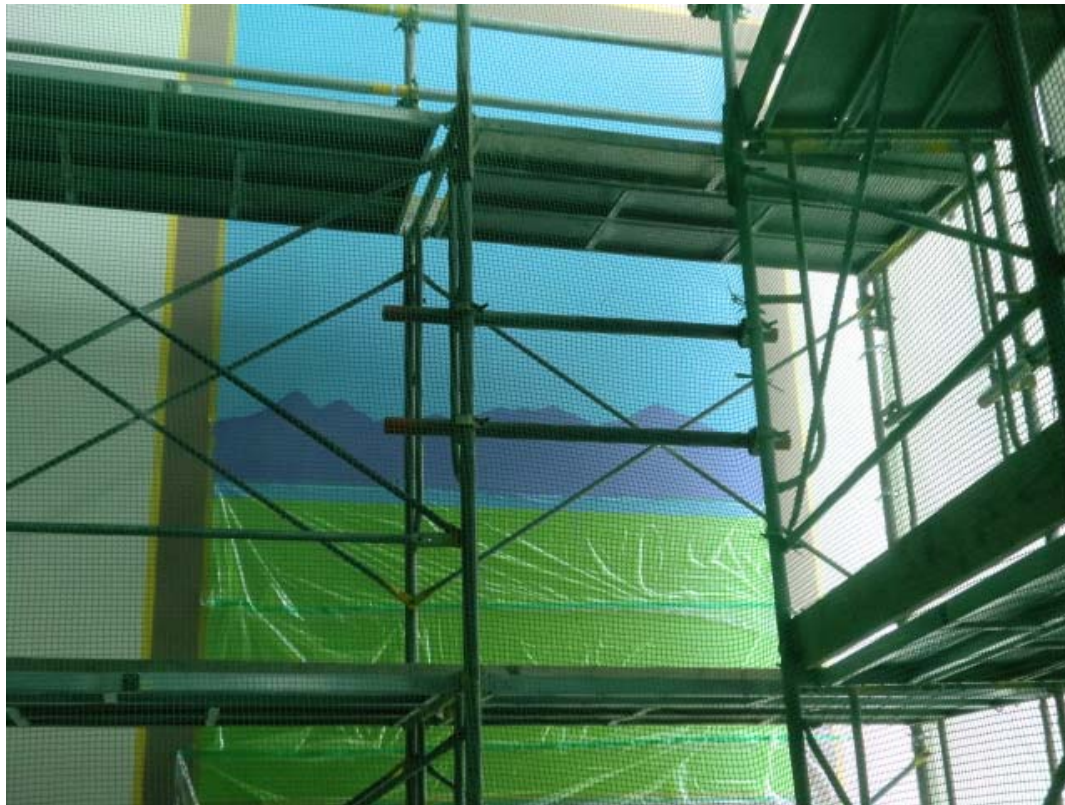
徐々にいろいろなモチーフを描く



絵具が垂れない
ようにしっかりと
保護する



アクリル絵の具
は乾燥が早いので、グラデーショ
ンも乾燥しないう
ちに。



階段と反対側
二上山、葛城山
金剛山を入れた。



鯛を描く。鯛
は堺の夜市
の象徴。



平和のシンボル鳩と愛の花である、薔薇を描く。



額から飛び出し
たカモメ。狭い
世界から広い
世界へ。自由を。



大きな蝶だから
細部まで描く。

耳原の歴史



地域を見守ってきた
樫を真ん中に入
れる構図。周り
に耳原病院、堺
のシンボル等。



赤色と青色と黄色の三原色の薔薇を描いた。



場所によっては
描くのが
厳しい姿勢になる。

壁面上部



高所恐怖症には
辛い

階段と反対側
虹色をイメージに。

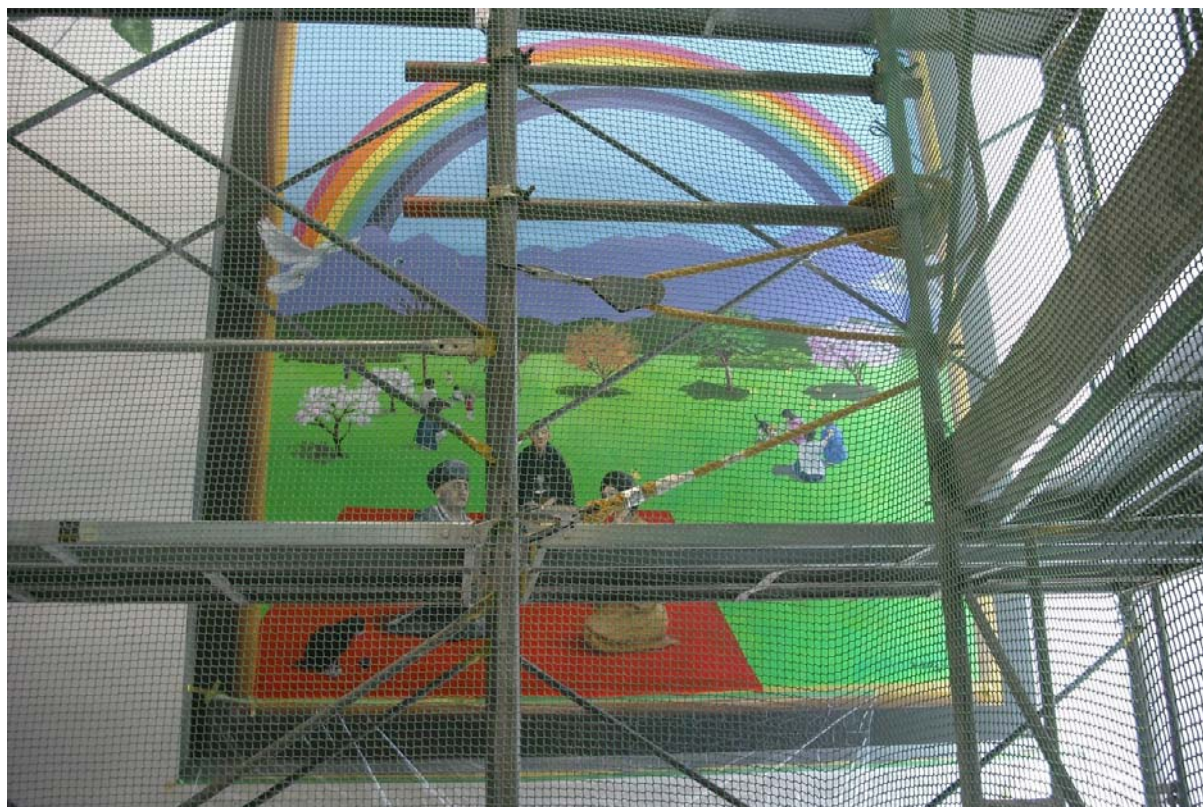


○耳原の歴史
○地域の関わりを
イメージ。地域を見
守る関係者

壁に額入りの絵が掛けられているイメージ



階段側



千利休、与謝野
晶子と坂田三吉
を描いて地元の
イメージを。



階段側
全体像

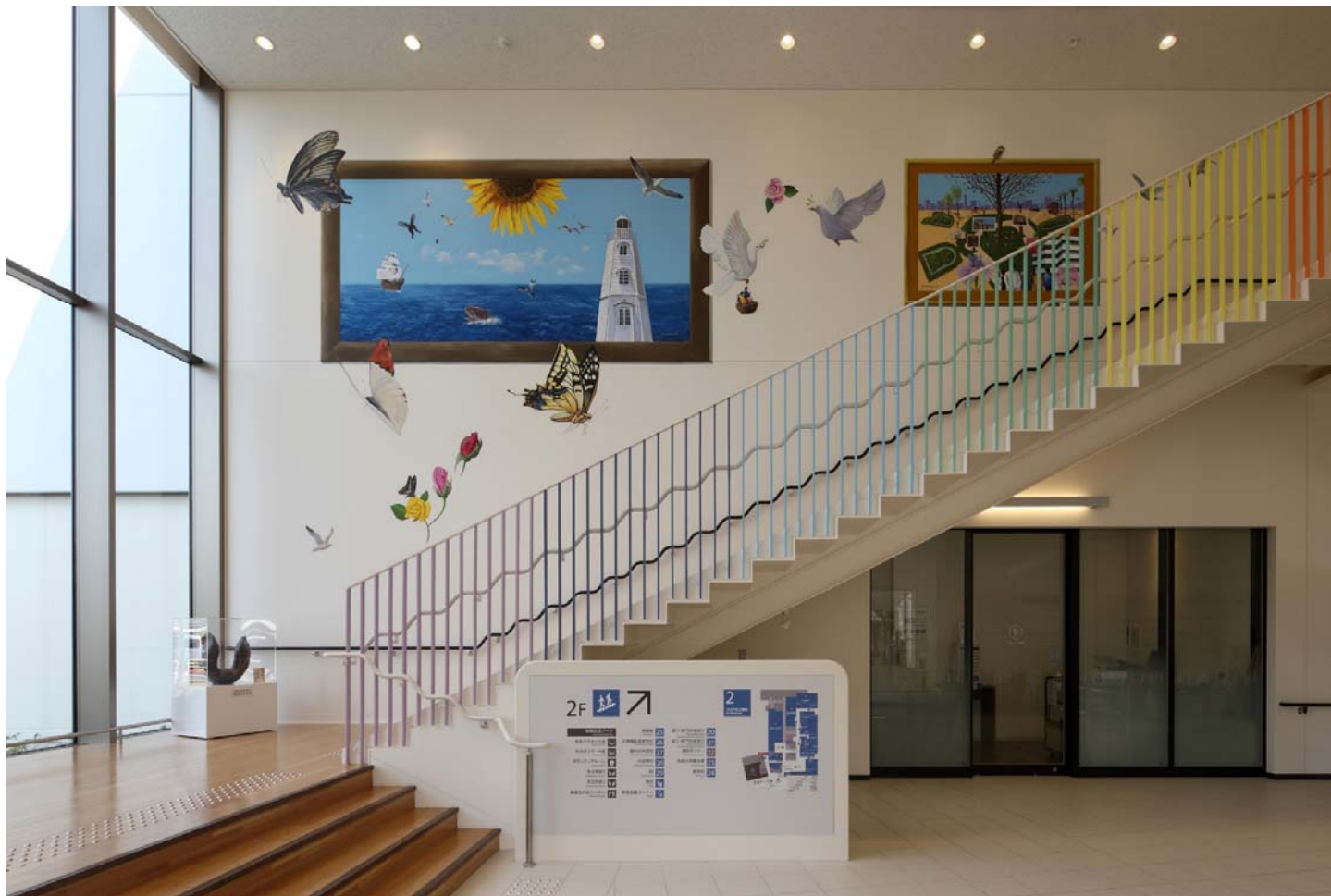


完成



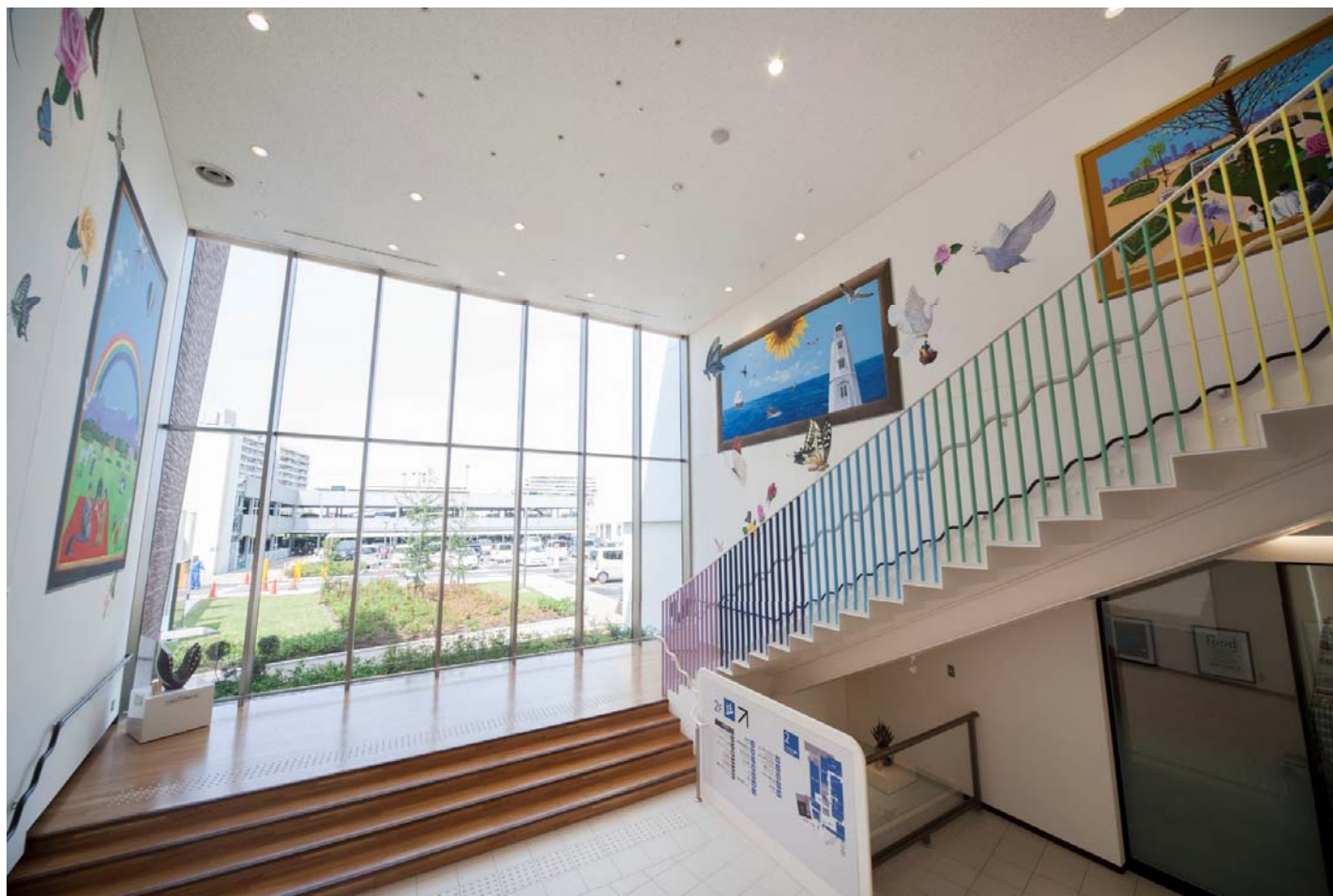
完成

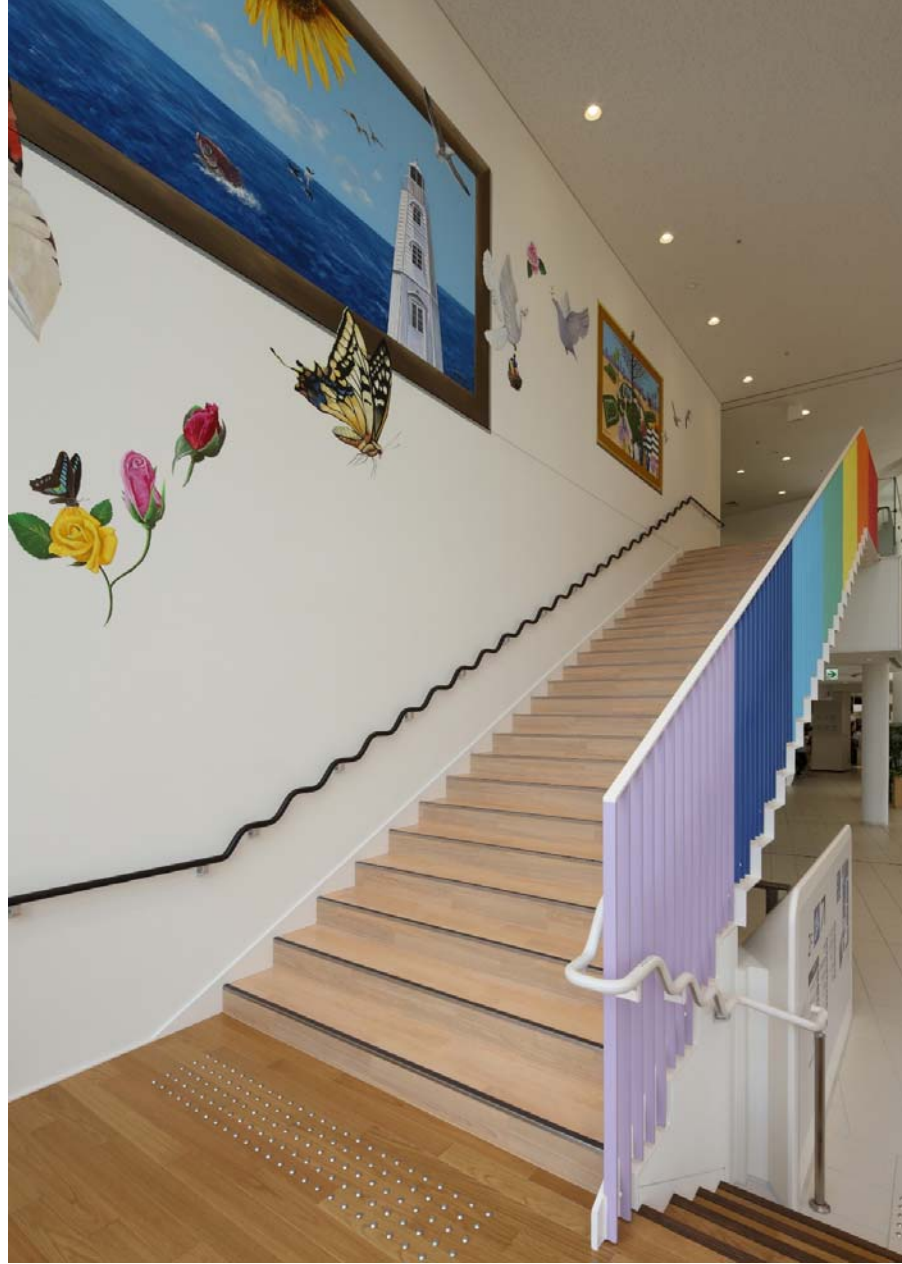


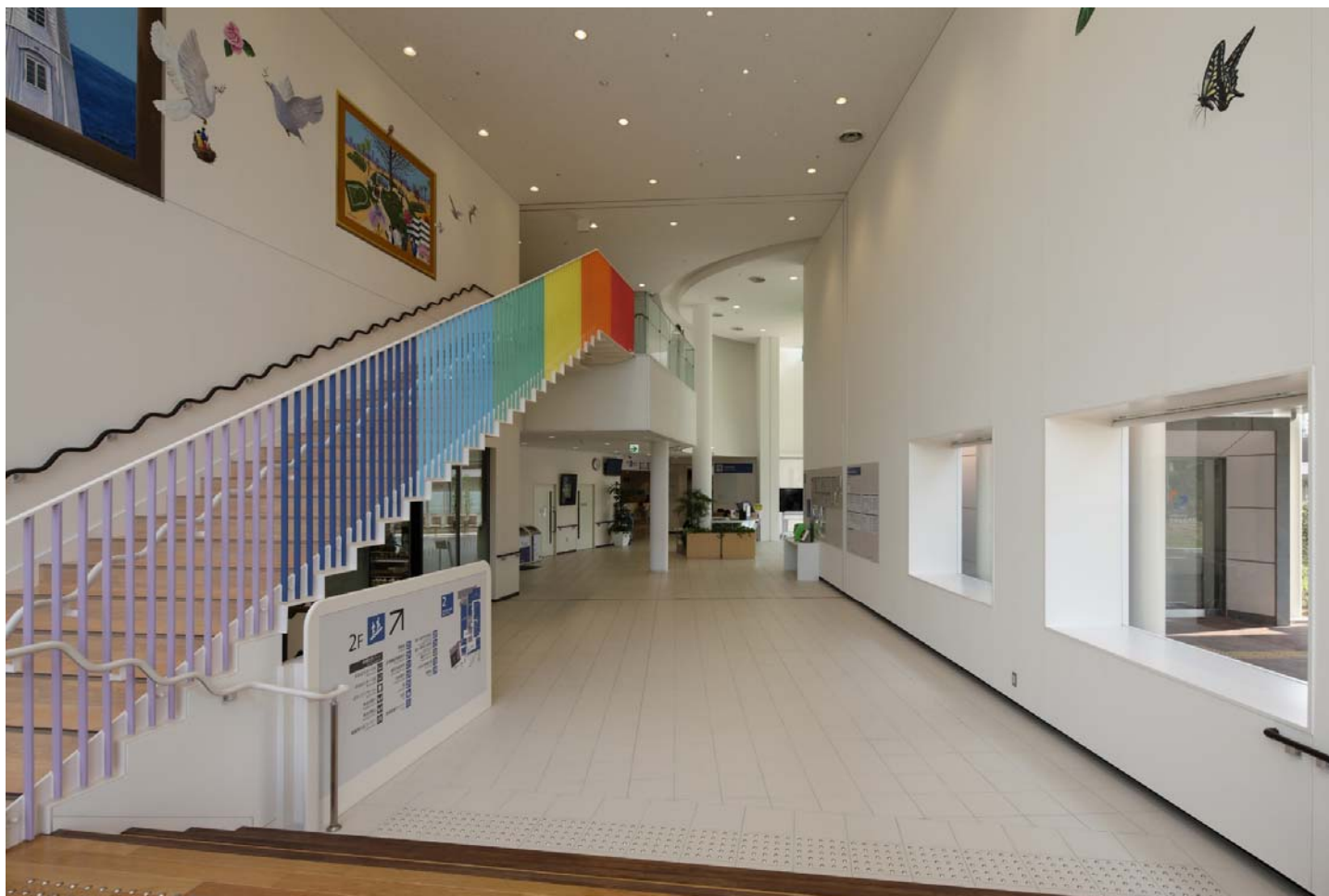








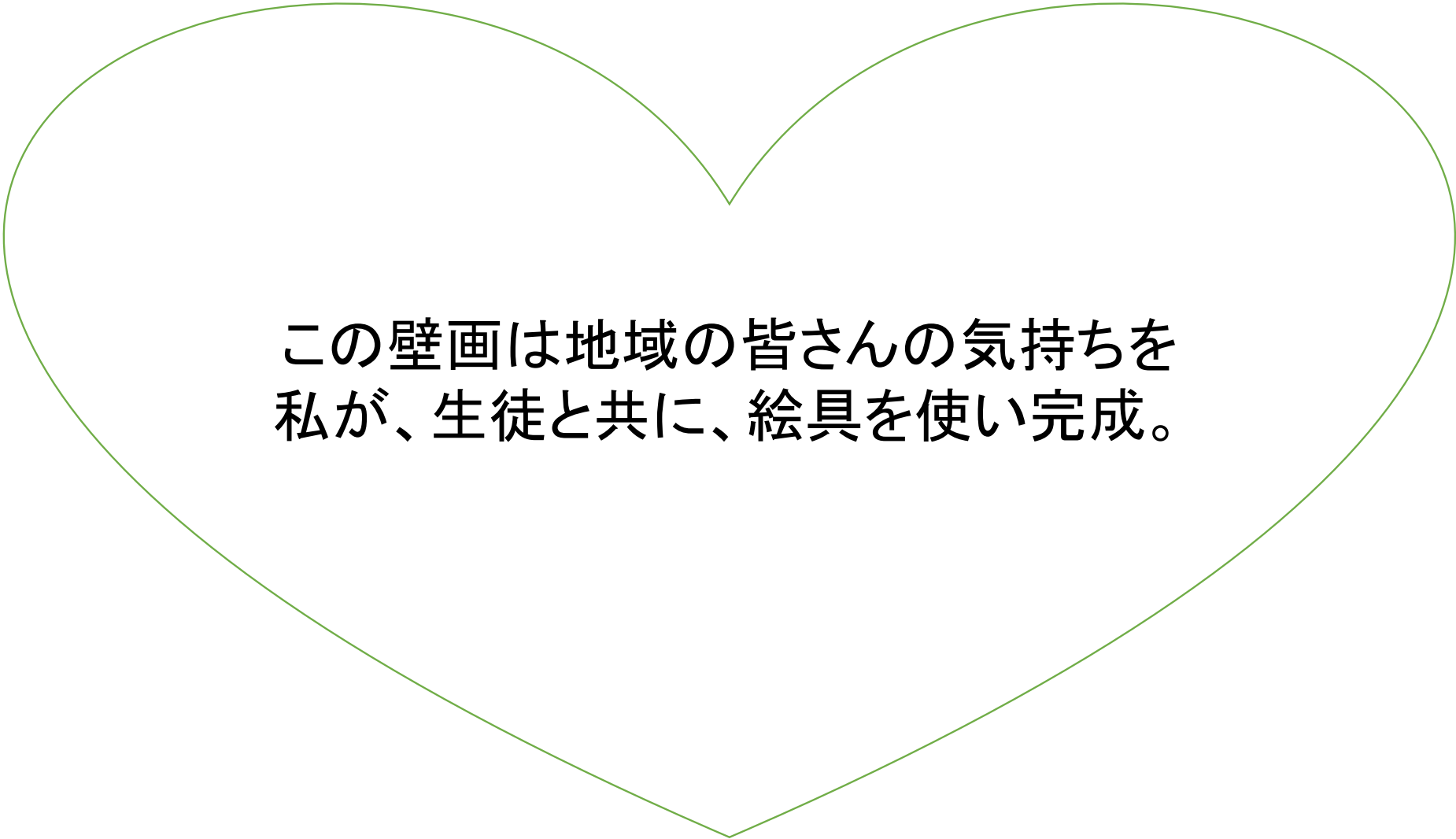












この壁画は地域の皆さんの気持ちを
私が、生徒と共に、絵具を使い完成。









終わり

アートの持つ力を信じてほしい